

**女性活躍を国際的に推進する議員連盟**  
**アフガニスタンにおける女性・女児の状況に関する声明**

令和3年12月22日

8月15日、タリバーンが、アフガニスタンの首都カブールに入り、同月末までに米軍撤退が完了、9月7日、タリバーンは「暫定内閣」の樹立を宣言しました。タリバーンによる勸善懲悪省の復活、女性・女児の教育・就労の機会の制限などにより、アフガニスタン女性の活躍に大きな歯止めがかかり、女性・女児の地位向上に向けた過去20年の国際社会の努力が後退することが心配されています。

私たち、超党派の女性活躍を国際的に推進する議員連盟は、アフガニスタンにおける教育、就労、移動の自由、健康といった女性・女児の権利を保護することを全ての当事者に求めます。さらに、アフガニスタンが、自らの力で女性・女児の権利を守っていくためにも、人道支援アクセスの確保を含め、現地での女性関連団体の活動継続が容認されるべきです。

今年8月のアフガニスタンにおける危機発生前までは、4名の女性閣僚、86名の女性国会議員が活発に活動していました。日本の女性国会議員とアフガニスタンの女性国会議員らとの間で交流が行われたこともあります。私たちは、女性・女児のエンパワーメントは全てのアフガニスタン人の利益となると確信しています。アフガニスタン女性の政治・意思決定プロセスへの参加は、男性のそれと等しく、保障されるべきです。

日本を含む国際社会及びアフガニスタンの全ての関係者に対し、アフガニスタンの状況を傍観することなく、アフガニスタンの女性が政治プロセスに参加できる環境を構築する支援をするよう呼びかけます。かかるプロセスを経て再び女性の政治参加が確保される暁には、私たちも積極的に対話をしていきたいと思っています。

タリバーンは、イスラム法の範囲内としつつも、女性・女児の権利を尊重すると公言しており、女子教育を完全再開させる意向や強制結婚の禁止を宣言するなど、前向きな動きも見られます。アフガニスタンが女性・女児の権利を尊重する国として国際社会に復帰することは、アフガニスタンの発展を積極的に促すものであると確信しています。私たちは、引き続き国際社会と連携して、タリバーンを含む全ての当事者が女性の状況をめぐり、ポジティブな措置を採ることを強く期待しつつ、引き続きアフガニスタン情勢、特に女性・女児が置かれた状況を注視していきます。

超党派 女性活躍を国際的に推進する議員連盟